



城陽おひさまプロジェクト news

第 53 号 2022 年 12 月 12 日 NPO 法人市民共同発電をひろげる城陽の会

0774-55-4190 <http://jyoyonokai.sakura.ne.jp>

城陽市から 10 月に「お尋ねと要望」の回答

「ゼロ宣言」の実現にむけ「計画」を策定中

温室効果ガス 30 年度 50%削減に向け市民の声、反映を

8 月に提出しておりました「お尋ねと要望」に対して、10 月 31 日付で城陽市から回答がありました。主な回答をお知らせします。

昨年 1 月の「カーボンゼロシティ宣言」を受けて、「実現に向けての（温暖化対策）計画となるよう」検討するとの前向きな回答も見受けられます。しかし、「宣言」の内容が各セクションでは充分共有されていないように思える内容もあり、今後も活動を強めていく必要を感じる回答となっています。

令和元年度の温室効果ガス排出量は 12 月に公表を予定

令和元（2019）年度の排出量については、国の統計数字を用いて算出するため 2～3 年遅れの公表となる為、今年発行予定の環境報告書で公表を予定されています。12 月の予定とのことです。現在の最新の排出量は昨年令和 3 年 12 月発行の環境報告書記載 260 千 t-CO₂（2018（平成 30）年度）となり、目標を達成されたことは評価できます。今後は「宣言」を踏まえ、ゼロに向けての目標設定とその施策の実施が求められています。

また、「ゼロ宣言」を踏まえた 2050 年までのロードマップについては現在策定中。出来次第、城陽市のホームページで公表するとしています。

昨年もお尋ねした、再エネ由来電力 3 割以上を調達するよう政府からの要請については「来ていない。」とのこと。また、再エネ比率については昨年同様、公表できる数値はないようです。

城陽市内の再エネ設備の設置状況

今回はじめて市が管理している主な施設の再エネ設備の設置状況をお伺いしました。回答は下の表にありますように、13 施設に太陽光発電設備や太陽光集熱器が設置されていることがわかりました。太陽光発電の昨年度発電量は 11600 kWh です。

太陽光発電及び蓄電池等設置施設

施設名	発電能力	設置年月	備考
東部デイサービスセンター	10kW	H13.12	
学校給食センター	10kW	H17.1	太陽集熱器 7.8kW
富野小学校	10kW	H20.12	
久津川保育園	10kW	H22.4	
陽寿苑		H15.1	太陽集熱器 48kW
今池保育園	10kW	H25.8	
青谷消防分署	10kW	H25.4	余剰電力買取
働く女性の家	10kW	H28.3	GND 蓄電池 10kWh
東部コミセン	10kW	H28.3	GND 蓄電池 10kWh
陽和苑	10kW	H28.3	GND 蓄電池 10kWh
ひなたぼっこ	10kW	H28.3	GND 蓄電池 10kWh
市役所西庁舎	10kW	H29.10	
消防本部・消防署	10kW	R02.04	

13 施設/太陽光発電 120kW・蓄電池 40kW、太陽光集熱器 55.8kW

消防本部の太陽光発電設備は 14161kWh、青谷分署は売電 5577kWh の回答もありました。

街灯のLED化は漸進、緑化要望には不十分な回答

21年9月時点で8255灯のうち7,064灯(85.6%)がLED化されています。今年9月までに水銀灯が7灯、ナトリウム灯が3灯LED化され、残りは水銀灯で256灯、ナトリウム灯で735灯になったと回答されました。これら2種の灯具は高価であり、灯具自体が使用不可能になったものについてLED化を実施されています。(街灯の使用電力は61万kWhを超えています。)

雨水タンク補助は7件217,000円、府は補助事業縮小の方向だが市は継続するよう要望しているとしています。

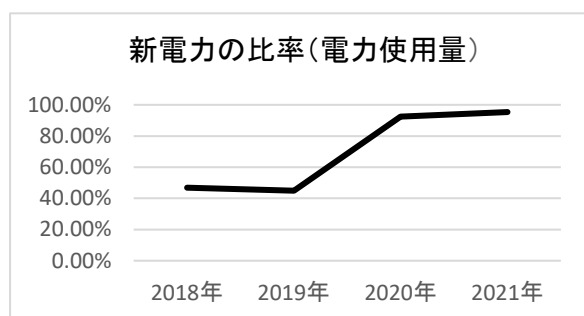
今回はじめて緑被率をお尋ねしました。市街化区域で20.5%、市街化調整区域で76.8%、市全域(都市計画区域)63.5%との回答でした。この数字は平成25(2013)年4月改訂版に記載されている「城陽市緑の基本計画」によるものです。おおよそ10年前の状態です。

緑化や植林、市街地の垣根の保全などの私たちの要望に対しては更なる緑化を求めないなどの回答が多く、大変残念です。現在の状況、温暖化防止や安全・安心の暮らしを踏まえた施策展開が求められていると思います。

新電力の増加傾向は継続、95%超に

電気やガスの使用についてのお尋ねでは、これまでの市庁舎・小中学校・コミセンや文化パーク・鴻巣会館などこれまでの施設に加えて街灯や子育て支援センター・ひなたぼっこなどをお尋ねしました。

今年お尋ねした施設の総計使用電力は581万kWh、金額は1億759万円でした。なおガスと灯油・水道料金を合わせた総計は1億8649万円となります。昨年と同じ施設市庁舎・小中学校などで比較した場合は、電力の使用量は443万kWh(432万kWh)、金額は9453万円(8512万円)となりました。使用量で11万kWh・2.5%の増加、金額で941万円・11%の増加となっています。



市役所の使用電力の購入先では昨年に引き続き新電力が90%以上を占め、僅かですがその

比率を引き上げています。

使用量

2018年	46.91%
2019年	44.91%
2020年	92.50%
2021年	95.36%

関西電力(株)以外の購入先としては新エネルギー開発株式会社と中部電力ミライズ株式会社が市庁舎・小中学校や給食センター、保育園などに給電しています。また、株式会社エネットと大阪ガス株式会社は老人福祉センター(4苑)で使われています。

新エネルギー開発株式会社:いたみ産業が100%出資している新電力会社。再エネ比率は0.02%、他社調達は57%

中部電力ミライズ株式会社:中部電力系の新電力会社。再エネ比率は3%、石炭火力21%

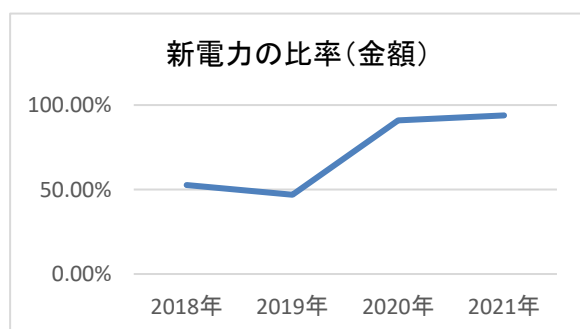
株式会社エネット:NTT・東京ガス・大阪ガスが出資してつくられた新電力会社。再エネ比率2%、石炭火力6%、LNG50%、石油1%

大阪ガス株式会社:大阪ガスが電気の小売りにも進出。再エネ比率は太陽光1%、LNG69%。

関西電力(株)の電源構成では再エネ比率が0.

3%程度になっています。多くの新電力会社は2~3%となっていて、比較的高いといえますが、ゼロカーボンシティ宣言を行った市として、温暖化対策を軸に再エネ比率や非化石証書の高い新電力会社を選ぶよう引き続き要望を強めていただきたいと思います。

今回お尋ねした街灯の電力量は613266kWh、全使用量の



金額

2018年	52.63%
2019年	46.91%
2020年	90.90%
2021年	93.86%

約10.5%を占めていました。全て関西電力からの供給です。また、お尋ねしたすべての電力量での新電力比率は81.7%となります。

2020年中の使用となりますので新型コロナの感染増加と原油価格の高騰が影響しているものと思われます。円安やウクライナ侵攻の影響は今年の電気代などに影響しますので、来年のお尋ねの際に注目したいと思います。なお、電気料金等の高騰に対しての施策についてお聞きしましたところ、下水道の基本料金の減免を行ったことなどがあげられました。

宣言の実現化はこれから

カーボンゼロシティ宣言を受けての施策を提案・要望しました。公用車やさんさんバスの電気自動車化や太陽光パネルの設置だけでなく更新についての補助制度創設などは「考えておりません」との回答。しかし、長岡京市が再エネ100%の新電力と京一VERクレジット制度を活用した、CO2ゼロで行うごみ収集事業のような施策を求めましたところ「検討する」とのことでした。

アウトレットの屋根に京都府が進めている0円ソーラーの活用や駐車場の緑化などの要望には「業者において判断」とされ、事業者まかせになっています。大規模太陽光発電所建設に際しての住民参加を基本とした条例制定についても昨年同様、考えていないとの回答です。

さんさんバスや公用車の電気自動車化についても要望していますが、実現はまだまだ遠いようです。「導入は考えて」いないが「動向を注視して」行きたいとしています。

コンパクトなまちづくり要望については「検討を進め」たいと回答しています。また、全ての公共施設に太陽光パネルと蓄電池の設置要望には「調査・検討」したいとしています。

LED電球の無料交換会を市でも実施してほしいとの要望には、啓発活動を行うにとどまっています。その他の要望や回答について、本会ホームページで紹介していますので、ぜひお読みください。

宇治市が太陽光発電設置条例を初提案、パブコメを実施中

宇治市が（仮称）市太陽光発電設備の適正な設置に関する条例を取りまとめたとの記事が11月19日付の洛タイに掲載されています。条例案では発電量50kW以上、面積は500㎡以上が対象となっています。住宅の屋根などは対象外で国定公園・風致地区・急傾斜地崩壊危険区域などは禁止されています。周辺住民等への説明会の開催・報告を義務化しています。11月22日から12月21日までパブリックコメントを実施、3月議会での条例制定を目指しているとのことでした。

私たちの会でも再エネ設備の事業化にあたっての条例化を求めていますので注目していきたいと思っています。

来年2月に白熱電球とLED電球無料交換会を企画

来年、23年2月26日（日）の午後、東部コミセン（城陽市寺田正道）を会場に3回目となる白熱電球とLED無料交換会を開催予定です。文化パルクでの1回目、今年2月に青谷コミセンで行った2回目続く3回目の実施になります。

詳しくは次号でお知らせします。



本会のQRコードです。本会ホームページを閲覧することができます。

NPO 法人市民共同発電をひろげる城陽の会

連絡先 0774-55-4190 e-mail bnkmf858@kcn.jp

福知山と城陽・宇治で太陽光発電所と計画地を見学

市民発電の会では各地に設置されている太陽光パネルの見学を行っています。その様子をご紹介します。

福知山たんたんエナジー

新電力会社・たんたんエナジー株式会社を10月7日に”表敬訪問”しました。地球温暖化防止活動でお世話になった木原さん・根岸さんが設立された新電力会社です。根岸専務にパネルがある三段池公園を案内して頂きました。体育館の屋根とサブアリーナで170kWあり、給食センターなどと合わせて300kWを確保しているとの説明。

再エネ比率は70%超、需要家は約300世帯、市役所や福知山城・市内の小中学校に実質再エネ100%の電気を届けています。



電気の小売りだけでなく買取もされています、卒FITの方、検討されてはいかがでしょうか。

会社概要：たんたんエナジー株式会社 福知山市篠尾新町3-79-2 竹下ビル202 電話0773-45-3061

設立 2018年12月10日 代表取締役 木原浩貴

←根岸専務（手前の方）から説明、三段池公園

城陽警察署

寺田南小学校の斜め前にある城陽警察署。20年8月に新庁舎が完成、環境に配慮した取り組みとして庁舎全体のLED化とともに太陽光発電設備が最初から設置されています。

10月14日に城陽署を訪問、副署長さんと会計課長さんから説明を聞くことが出来ました。設置されているパネルは京セラの多結晶シリコン280Wが12枚、3.36kWh、蓄電池は無くリアルタイムでつくられた電力を使用しているとの説明をいただきました。

城陽消防署

11月14日、城陽市消防本部・本署のパネルを見学させて頂きました。課長さんらに屋上に案内していただき、パネルが2カ所に設置されて10kWhの発電能力があるとのこと。屋上はエアコンのタワーやお天気の観測機器、自家発電装置などが所狭しと並び、一部は花壇にされていて緑化にも取り組んでおられました。会議室でパネル設置についての説明があり、京都府の3000㎡以上の建物について3kW以上の再生可能エネ施設の設置義務付けと環境に配慮す



ることが必要との認識から設置に至ったとのこと。蓄電池は設置していないが、能力的に見て完全に使い切る状態となることが推測されるので設置しないこととなったとのこと。太陽光発電設備からの非常用電源コンセント（赤色コンセント）が設置されていることも説明されました。

日々、市民の命と財産を守る最前線での活動に感謝して消防署を後にしました。

←屋上にシャープ製のパネルが2群36枚

宇治で大規模な太陽光発電の計画、現地見学会に参加

宇治市の志津川上流域・炭山地域に太陽光発電所が計画されています。現地の方々が国土研の専門家とともに11月23日に現地見学会を開催され、杉浦理事が参加しました。

志津川の上流、宇治市菟道新池の現地は急傾斜の山崩れがおきそう地形でした。地元の人たちは風水害や緑の環境が損なわれるのを心配されておられました。

現地は杉の植林地、もとは茶畑だったようです→

